

令和二年度 大阪国税局長賞

「税金でつなげた未来」

桜井市立桜井西中学校 二年 西本 伊吹

僕の妹は、世界中で女の子だけに発生する「ターナー症候群」です。

二千五百人に一人という、珍しい疾病です。

四歳の時、風邪を引いて病院へ行った。その時の先生が、検査を勧めてくれたおかげで発見できたのだそうだ。

妹は、元気だ。そして、チビだ。今、妹は十歳。僕の十歳の時の身長より、20センチくらい小さい。毎日、成長ホルモンを注射している。もう、五年目。

それでも妹は、まだチビだ。定期的に、大きな病院で色んな検査をする。

冷蔵庫には、妹の注射が沢山入っている。

病院の会計の時、

「あの一、本日百万円有りますか？」

と、言われた母は、顔色が青ざめたそうだ。

小児慢性特定疾病医療受給者証を、毎年、毎年、県に更新しなくては、いけないのを知らなかったのだそうだ。それが無ければ、自己負担金が、妹の場合は「百万円」かかると言うのだ。

普通は、一万円で治療と検査が受けられるらしい。

もちろん、毎日注射をしても、疾病が治るわけでも、消えてくれるわけでもないけど、それでも、妹の背を1ミリセンチでも伸ばすために、必要なことで、欠かせない。

そして、ここに収めた「税金」が、妹の成長を助けてくれている。

消費税が、十パーセントになって、目に見えて、何となく損した気持ちになってしまうけど、妹の治療を考えた時、「税金」に救われた人達が、きっと沢山いるんだろうな。と、考えると、税金って必要だと思う。

妹の疾病は、もうどうにもならないけど、お母さんのお腹の中で、99パーセントの確立で、生まれてこられないそうです。

だから、生まれてきてくれた妹は、残り1パーセントの「奇跡の子」だ。

そして、僕の妹を支えてくれているのは、税金なのだ。

妹は、今日も注射をする。少し背が伸びるだけでも、すっごく嬉しそうに報告する。

妹は、まだチビです。生意気で、ちょっとうるさいけど、妹はがんばり屋さんだ。

妹のように、高額な医療費の治療が必要な人達が、税金で救われるのなら、明日も元気でいられるのなら、「税金って良いな。」と思えた。

税金で、つなげる未来！

今日も、妹は元気です。